

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 6年 3月 8日

事業所名 みらいスイッチ神埼

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	0	0	・3部屋あり、活動に応じて適切なスペースを保てる環境である。	
	2	職員の配置数は適切である	6	0	0	・人員基準に従っている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	1	1	・段差はあるが、車いすを利用される方でも移動は可能	・現在、車いすを利用される方がいない為、判断が難しい。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6	0	0	・毎日朝夕のミーティングや定期的に職員会議を開催している。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	0	0	・実施したアンケートをしっかりと反映できるように取り組んでいる。	・今後もアンケートを反映できるように取り組んでいきたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	0	0	・公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	3	0		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	0	0	・月に一度、社内研修を実施している。	
適切 な 支 援 の 提 供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6	0	0	・契約前に事業所の見学や体験を実施し、その際にアセスメントを行なっている。また、利用開始後も定期的にアセスメントを実施している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	1	0	・HUGを使用し、記録を適切に保管している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	0	0	・活動を定める会議を開催し、職員が意見を持ち寄っている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	0	0	・活動やイベントの担当を決め、内容が固定化しないように工夫している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	1	0	・月毎に利用者と相談しながら課題や目標達成に取り組んでいる。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5	1	0	・子ども同士の相性やその時の精神状態を考慮しながら実施するようにしている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	0	0	・朝のミーティングで一日の流れを確認し、送迎や支援等の役割分担を行なっている。	

	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	1	0	・タフのミーティングでその日の出来事や翌日の業務内容を共有している。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	1	0	・その日の出来事を共有することで翌日以降の支援につなげている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6	0	0	・定期的にモニタリングを実施している。また、必要に応じて実施する場合もある。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	5	1	0		
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	0	0	・管理者及び児童発達支援管理責任者が参画している。状況に応じて直接処遇のスタッフも参画している。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	5	1	0	・必要に応じて情報共有を行なっている。時間割表など、学校から配布されることもある。	・不登校児の対応をもっと密に連携が取れるように情報の共有をしていきたい。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0	2	4	・現在、受け入れがない。	・受け入れる際には適切な配置（看護師等）が必要である。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	1	0	・必要に応じて情報共有を行なっている。	・利用者の特性や様子を把握する為に今後も必要に応じて実施する。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	0	5	1	・学校を卒業する方が今までにいない。しかし、転校される利用者に関しては情報提供書等を準備することもあった。	・今後、学校を卒業される方に対しては各関係機関との連携を図っていきたい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	3	1	・必要に応じて、助言してもらおう為に連絡を取ることもある。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	2	4	・機会がない	・今後、交流する機会を設けたい。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	3	2	1		・協議会が開催されれば参加したい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	0	0	・日々の様子を連絡帳に詳しく記載したり、送迎時に直接保護者と伝え合っている。	

	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	2	2		
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0	0	・利用前の見学時や契約時に説明している。 支援内容については保護者の意見以上に利用	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	1	0	・相談があった際にはその日のうちに応じ、必要な助言と支援を行なうようにしている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	3	1	・保護者参加型のイベントを実施している。	・今後は保護者同士が気兼ねなく情報の共有ができる場を設けたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0	0	・苦情にまで至らずとも相談を受けた際にはすぐに解決できるように心掛けている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	0	0	・月に一度お便りを発行し、家庭に配布している。また、イベントの告知やSNS（インスタグラム）を使用して空き状況等も発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	6	0	0	・適切に保管し、外部に持ち出さないように徹底している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	0	0	・配布物（お便り、公文書）、HUG、送迎時に口頭でお伝え等、様々な方法で情報伝達をしている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	3	1		・招待することはできていないが、地域での行事やイベントには参加している。今後も積極的に参加したいと思っている。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	2	0	・マニュアルを作成し、周知している。	・マニュアルに対する研修を実施し、より知識を深めていきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	0	0	・定期的に災害（火災・地震）を想定して避難訓練を実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	0	0	・虐待防止の研修を行なっている。また、虐待防止委員会を設置している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5	1	0		・必要に応じて事前に保護者へ説明し、記録を残す。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	0	3	3		・現在、食物アレルギーのある利用者が居ない為、今後受け入れがあった際には医師の指示書に基づく対応を行なっていく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	0	0	・事業所内で起きたヒヤリハット以外にも他事業所で起きた様々な事例を用いて情報共有を図っている。	